

融雪機能付き雪庇防止柵

太陽電池で自ら発電・融雪して雪庇を防止します。夏期はビルの電源としても使用できます。

特許第6326391号 雪庇防止装置

【雪庇とは】

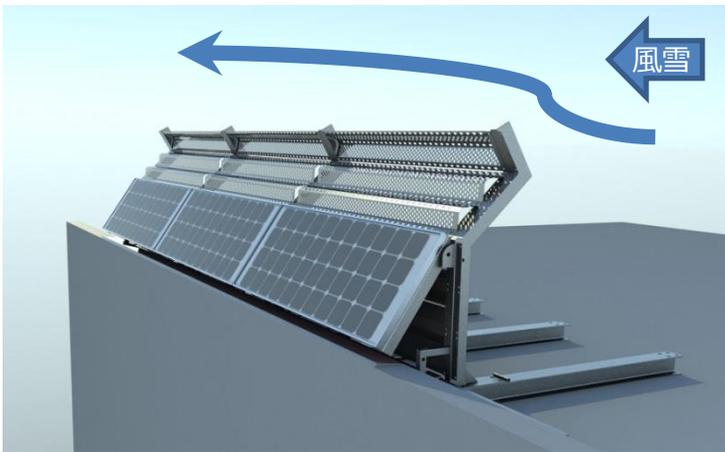


建物屋根の風上側からの風雪が障害物等の影響を受け風速が弱まり、吹き溜まりを作る現象で特にパラペット部分で乱流を作り、剥離渦が徐々に着雪され降雪と共に軒先からせり出します。次第に重力によってクラックを起こし落下すると重大な事故に繋がります。

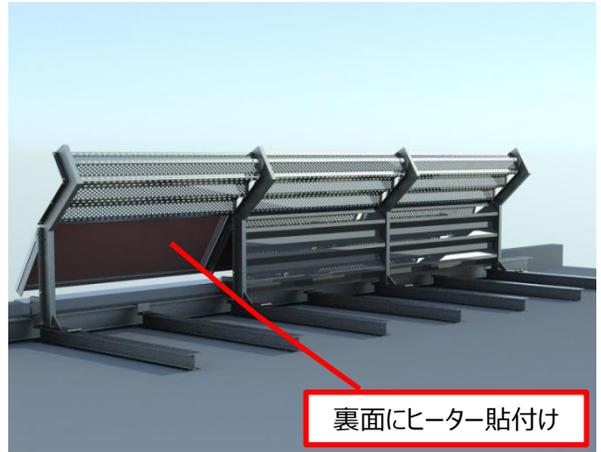
雪庇が原因となる事故の状況としては、下記が挙げられます。

- ・屋上に雪庇が出来て雪が落下し、人身事故に繋がった
- ・雪庇が落下し駐車している車を破損した。
- ・雪庇が出来たため、雪下ろしをしていて転落し、足を骨折した。
- ・雪下ろし最中、スコップを屋上から落として駐車している車を破損した。
- ・雪庇が落下し隣の民家にぶつかり、破損した。

【冬期は雪庇防止柵として】

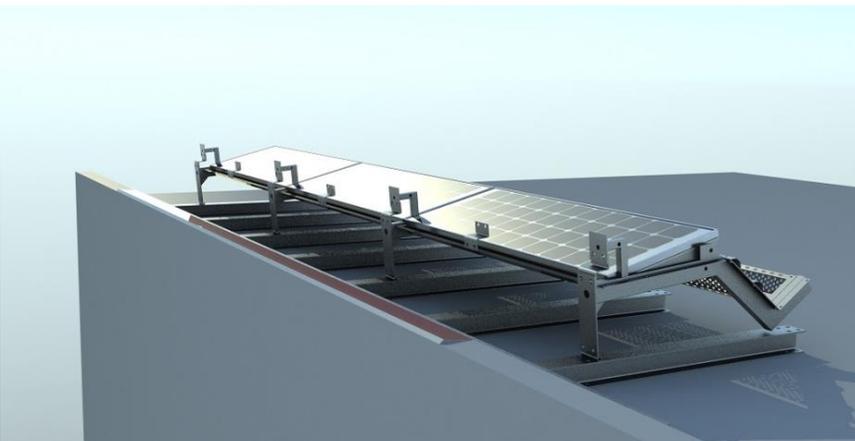


弊社の高性能防雪柵の原理を応用して、風上側から来る風雪を遠くへ飛ばして雪庇を防止します。



無風時は降雪が太陽電池の表面に積もることあるため、太陽電池の裏面にヒーターを設置して、太陽電池で発電した電力で表面に積もった雪を融かして雪庇を防止します。

【夏期は太陽光発電装置として】



雪庇防止柵として使用しない夏期は背面側に折り畳める構造となっているため、様々なメリットがあります。

- ① 高所でも安全にメンテナンスができます。
- ② 景観上、光の反射等の影響を周辺に与えません。
- ③ 夏期は冬期よりも太陽が高い位置にあるため、折り畳むことにより日射量の増加が見込め、**ビルの共用電源**として有効に使用できます。

